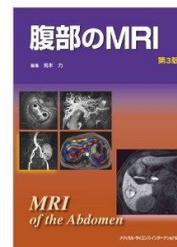


・ 社 告 ・

「腹部のMRI 第3版」(2014年4月10日 第1刷)

に関する不適切な記載のお知らせ



弊社、本年4月の新刊「腹部のMRI 第3版」に以下の通り、ガイドラインの変更が反映されていない不適切な記載がございました。まずはここに周知をさせていただきます。同時に、正誤表での対応では不十分と判断し、流通途上の在庫を回収して然るべき修正の処置を講じるとともに、既にお買い上げいただきましたお客様には修正版と交換をさせていただきます。大変ご迷惑をおかけし、深くお詫びを申し上げます。

●該当箇所：10.3 腎の腫瘍性病変 a. 嚢胞性腎腫瘍 5) 透析腎

●該当頁：310頁、下から2行目 ～ 311頁、上から3行目

(誤)

だが、時に大きくなり、経過中に見つけられる。その検出には造影CTが有用であるが、MRIは放射線被曝のないこと、造影剤の腎毒性やアレルギー反応が少ないことにより、これらの患者のfollow-upに有用である。その際、ポイントは充実性の腫瘍の存在の有無である。充実性成分が疑われた場合にはGd-DTPAによる造影を行い確認する必要がある。

(正)

だが、時に大きくなり、経過中に見つけられる。その検出には造影CTが有用である。MRIは、これらの患者のフォローアップに用いられることもあるが、透析患者では造影剤は禁忌であるため、その有用性は低い。

なお、交換に関するお問い合わせは、お買い上げいただきました書店様、または弊社販売部（03-5804-6051）までお願いいたします。